

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 4 区分

【発行日】平成20年1月31日(2008.1.31)

【公開番号】特開2002-56656(P2002-56656A)

【公開日】平成14年2月22日(2002.2.22)

【出願番号】特願2001-119555(P2001-119555)

【国際特許分類】

G 1 1 B 27/10 (2006.01)

G 1 1 B 27/00 (2006.01)

G 1 0 L 19/00 (2006.01)

【F I】

G 1 1 B 27/10 A

G 1 1 B 27/00 D

G 1 0 L 9/18 M

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月6日(2007.12.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ユーザによる視聴の対象となる情報単位、および、該情報単位の再生時間に関する再生時間情報と該情報単位の記録位置に関する記録位置情報とを含む管理情報が記録された記録媒体から、前記情報単位および前記管理情報を読み出す再生部と、

前記情報単位の所望の再生時間を入力する操作部と、

再生部が読み出した前記記録位置情報に基づいて、前記情報単位の記録媒体上の記録位置を検索し、再生部を制御して前記記録位置から前記情報単位を再生する制御部と

を備えた再生装置であって、

操作部から入力された前記所望の再生時間から前記情報単位を再生する場合に、制御部は、前記再生時間情報および前記記録位置情報に基づいて、前記再生時間およびデータ量が比例関係にある推定直線を求め、前記推定直線に基づいて前記所望の再生時間に対応する推定記録位置を検索して、該推定記録位置における前記情報単位の実際の再生時間と、前記所望の再生時間との誤差を計算し、前記誤差が所定の範囲内にある場合には該推定記録位置を前記所望の再生時間に対応する前記情報単位の記録媒体上の記録位置として特定する、再生装置。

【請求項 2】 前記推定直線の傾きは、前記情報単位の再生時間とデータ量との比である、請求項 1 に記載の再生装置。

【請求項 3】 前記誤差が所定の範囲内でない場合には、制御部は、少なくとも前記推定記録位置および前記推定記録位置に対応する前記情報単位の再生時間に基づいて次の推定直線を求め、該推定直線に基づいて前記所望の再生時間に対応する次の推定記録位置を検索して、該次の推定記録位置における前記情報単位の実際の再生時間と、前記所望の再生時間との誤差を計算し、前記所定の範囲内に入るまで繰り返し検索する、請求項 1 に記載の再生装置。

【請求項 4】 前記次の推定直線の傾きは、最も最近得られた 2 つの前記推定記録位置における、前記情報単位の実際の再生時間の差とデータ量の差との比である、請求項 3 に記載の再生装置。

【請求項 5】 ユーザによる視聴の対象となる情報単位、および、該情報単位の再生

時間に関する再生時間情報と該情報単位の記録位置に関する記録位置情報とを含む管理情報が記録された記録媒体から、前記情報単位および前記管理情報を読み出すステップと、
前記情報単位の所望の再生時間を入力するステップと、

読み出した前記記録位置情報に基づいて、前記情報単位の記録媒体上の記録位置を検索し、前記記録位置からの前記情報単位の再生を制御するステップであって、入力された前記所望の再生時間から前記情報単位を再生する場合に、

前記再生時間情報および前記記録位置情報に基づいて、前記再生時間およびデータ量が比例関係にある推定直線を求めるステップと、

前記推定直線に基づいて前記所望の再生時間に対応する推定記録位置を検索するステップと、

該推定記録位置における前記情報単位の実際の再生時間と、前記所望の再生時間との誤差を計算するステップと、

前記誤差が所定の範囲内にある場合には該推定記録位置を前記所望の再生時間に対応する前記情報単位の記録媒体上の記録位置として特定するステップと

を含む再生方法。

【請求項 6】 推定直線を求める前記ステップは、前記情報単位の再生時間とデータ量との比を計算して、前記推定直線の傾きを求めるステップを含む、請求項 5 に記載の再生方法。

【請求項 7】 前記誤差が所定の範囲内にない場合には、

(a) 少なくとも前記推定記録位置および前記推定記録位置に対応する前記情報単位の再生時間に基づいて次の推定直線を求めるステップと、

(b) 該推定直線に基づいて前記所望の再生時間に対応する次の推定記録位置を検索するステップと、

(c) 該次の推定記録位置における前記情報単位の実際の再生時間と、前記所望の再生時間との誤差を計算するステップと、

前記所定の範囲内に入るまで、(a) ~ (c) のステップを繰り返すステップとを含む、請求項 5 に記載の再生方法。

【請求項 8】 次の推定直線を求める前記ステップは、最も最近得られた 2 つの前記推定記録位置における、前記情報単位の実際の再生時間の差とデータ量の差との比を計算して、前記次の推定直線の傾きを求めるステップを含む、請求項 7 に記載の再生方法。